

講義レジュメ

講 師 山内 道雄

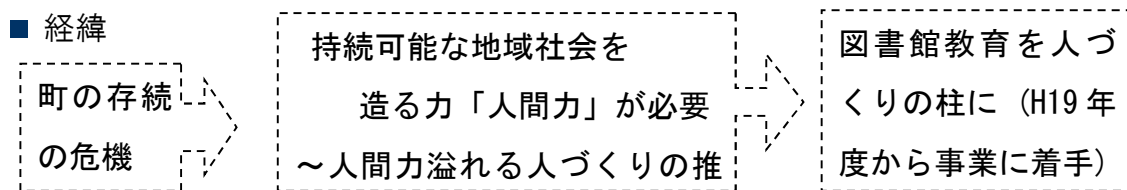
内容・テーマ

海士町・島まるごと図書館構想の取組

期 日 6月29(金)

(1) 島まるごと図書館構想発足の経緯と概要

■ 経緯



H19年 未設置図書館地域として図書館事業がスタート

〔 町内の保育園・小学校・中学校・高校への学校司書配置を開始、
地区公民館等の地域分館の新設、海士町中央公民館図書室をリニューアル 〕

H22年 海士町中央図書館が開館（公民館との複合施設）

H26年 I R I主催「ライブラリー・オブ・ザ・イヤ-2014」で優秀賞受賞

H30年 町内の分館が20館に増加（地域館15、保～高校学校図書館5）

■ 事業開始当初の課題

高齢・過疎化・予算及び図書館のないなかで読書環境をいかに整え、島民の皆様に図書館サービスを提供していくか？



■ 課題に対し生まれた「島まるごと図書館構想」とは？

“図書館のない島”というハンディキャップを逆に活かし、島の学校(保・小・中・高)を中心に、地区公民館や港など人が集まる既存の施設を図書分館と位置づけ、それらをネットワーク化することで、島全体を一つの「図書館」とする構想。

■ 島まるごと図書館構想の特徴

- ・分館でのアウトリーチサービスに重点を置いた運営方法で、司書が各図書施設・利用者・本をつなぐ役割を担う。
- ・学校図書館と公共図書館が一体となり運営。分担収集や方針の共有等が行われている。

(2) 課題と成果

■ 課題

- ・ 図書館文化を根付かせ、知のインフラと認知してもらう必要がある。
- ・ 予算及び蔵書不足のため、全分野のニーズに迅速に対応できない。
- ・ 図書館が狭く収容能力が限界にきており、さらなる進展のためにも拡張が必要。
- ・ U・Iターン者の利用が多く、地元住民の利用がやや少ない。

■ 成果

- ・ 島の「地域力」「連携力」で各機関が協力して取組むことにより、図書館をめぐる課題を乗り越え、効率よく島の図書基盤整備を進めることができた。
- ・ 各図書施設の蔵書、利用状況、課題を把握し、的確・柔軟に対応をすることで、学校図書館、公共図書館、地域分館など全体としてバランスのとれた有機的な図書館づくりができた。
- ・ 島民の身近な場所に分館及び返却ポストを設置したことで、赤ちゃんからお年寄りまで気軽に本を手にする環境が整い利用が増加した。

(年間総貸出数 H15年 1,189冊 ⇒ H29年 12,572冊と10倍増)

■ 展望

海士町の島を挙げた取組は、ハンデを逆に活かし学校・公共図書館を含め町全体で図書館運営を考えるという視点により、ある一定の成果を生み出すことができた。利用者は、教育・文化施設として、また情報収集や憩いの場など多様な目的をもって図書館を訪れる。今後も住民の暮らしにしっかり目を向け、利用状況やニーズを的確に捉え、柔軟な発想で多面的な図書館づくりを行っていききたい。そして、図書館が決して便利ではない島での暮らしを下支えし、教育・文化・暮らし・地域づくりのインフラとなれるよう取組んでいきたい。